５月休校延長を受けて　生徒のみなさんへ

早稲田摂陵中学校・高等学校

５月に入り、新緑と太陽の日差しが心地よい季節となりましたが、心はなかなかこの陽気のようにはいきません。緊急事態宣言の延長が決まり、学校も 5 月 31 日までの休校延長が決まりました。これまでの教育活動が再開できるような状況になれば良いのですが、状況を見る限り、学校が再開されてもこれまでの活動をすべて再開できるまでには、まだまだ時間がかかることでしょう。３月～５月という最もワクワクするこの季節に、学校での勉強や部活動などたくさんの「やりたかったこと」ができなくなってしまった生徒のみなさんの気持ちを思うと、非常に残念でなりません。悔しい思いでいっぱいです。

さて、今回のコロナ危機を経験し、日本の教育は大きな[1]パラダイム転換を迫られています。これまでの教育では、（答えのある）与えられた課題に正確に答えることが求められました。例えば大学入試ではセンター試験に代表されるように、出題される課題を分析し、そこへ向けて必要な知識を詰め込んできました。ともすると入試に必要ではない知識は排除することもありました。つまり、必要な情報をインプットし、正確にアウトプットすることが求められたわけです。しかし、21 世紀を生きるみなさんにとっては、「答えのない課題」に挑む「たくましい知性」と「しなやかな感性」が重要となるということを説いてきました。そして、この力の重要性は、みなさんが社会に出たころを想定していたわけですが、今回のコロナ危機によって必然的な転換が突きつけられる事態となったわけです。戦後、このように３か月にも及んで社会・経済が停滞し、学校・教育活動が停止することは無かったわけです。全く予想もしていないことでした。世界のどこにもこの課題についての答えはありません。科学的な見地かと思われる防疫ですら、各国バラバラの対応を行ってきました。「答えのない課題」に対して、慣例や常識、経験、情報のみで判断するのではなく、目の前の状況や本質を捉え、決断や思考することを我々は求められたわけです。

学校でも今回の想定外の事態に様々な対応が迫られました。我々にとっても経験をしたことがない事態でした。これまでの経験や常識が通用しません。しかし、この期間我々教員は、何とか知恵と技術を共有しこの難局を乗り切ろうと、動画や課題の作成、オンラインでの生徒とのやり取りにチャレンジしてきました。5/12 から時間割を軸に各学年のオンライン授業が展開されます。動画を視聴し、課題をこなすスタイルが中心かと思いますが、みなさん自身もポストコロナの時代に対応できるよう、パラダイム転換を図ってください。「言われたことをやる」「テストがあるからやる」というマインドから、自分に必要な情報を集め、課題を発見し取り組む「主体的学習者」になりましょう。

---

[1]「知の枠組み」、ある時代や分野において支配的規範となる「物の見方や捉え方」のこと